

教養教育「日本語」「日本事情」報告（2008年4月～2009年3月）

加藤 扶久美

1 はじめに

2005年に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）および高岡短期大学（高岡キャンパス）を再編・統合し、新・富山大学となったが、学部の教養教育に関しては、各キャンパスで旧実施体制を引き継いで実施されている。本稿では五福キャンパスにおいて、学部正規留学生を対象として開講されている教養教育「日本語」「日本事情」について報告する。

五福キャンパスの教養教育では、外国語科目として「日本語A」「日本語B」を、総合科目として「日本事情I」「日本事情II」「日本事情III」を開講している。以下に、2008年度の教養教育「日本語」「日本事情」の実施状況について報告する。

2 「日本語」

「日本語A」は学部正規留学生1年生を対象とした科目で、前学期に「日本語A1」を、後学期に「日本語A2」を開講している。「日本語B」は、2年生以上の学部正規留学生と各学部から受講申請願いの出された聴講生、科目等履修生を対象とした科目で、前学期に「日本語B3」を、後学期に「日本語B4」を開講している。

授業では中・上級用の日本語教材、視聴覚教材、新聞や雑誌の記事を使って、四技能（聞く、話す、読む、書く）の面でバランスのとれた日本語能力の養成と、大学での学習や研究活動に十分な日本語能力の養成を目的としている。主に文法・作文中心の授業と読解・聴解中心の授業がある。

2.1 2008年度の実施状況

前学期は、文系クラス（人文学部・人間発達科学部・経済学部対象）の「日本語A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語B3」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、主に人文学部の留学生を対象として火曜日4時限に1コマ、全学部留学生を対象として木曜日4時限に1コマ、主に工学部の留学生を対象として金曜日2時限に1コマ、合計4コマ開講した。

後学期は、文系クラス（人文学部・教育学部・経済学部対象）の「日本語A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語B4」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、全学部留学生を対象として水曜日2時限と木曜日4時限に各1コマ、合計3コマ開講した。

2.2 授業科目及び授業担当者

前学期は、「日本語A1」をセンター専任教員3人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹）及び非常勤講師1人（深川美帆）が担当し、「日本語B3」を学部留学生専門教育教員3人（人文学部；山崎けい子、経済学部；村上剣十郎、工学部；宮武滝太）及び非常勤講師1人（横掘慶子）が担当した。

後学期は、「日本語A2」をセンター専任教員2人（後藤寛樹、副島健治）、学部留学生専門教育教員2人（人文学部；山崎けい子、工学部；宮武滝太）が担当し、「日本語B4」をセンター専任教員1人（濱田美和）、経済学部留学生専門教育教員1人（村上剣十郎）及び非常勤講師1人（横掘慶子）が

担当した。

2.3 受講者

前学期の受講者は、「日本語A1」が25人であり、「日本語B3」が月曜日3時限に3人、火曜日4時限に8人、木曜日4時限に3人、金曜日2時限に1人であった。

所属別の内訳は、「日本語A1」が人文学部7人、経済学部5人、工学部13人であり、月曜3時限の「日本語B3」が工学部3人、火曜4時限の「日本語B3」が人文学部聴講生8人、木曜日4時限の「日本語B3」が人文学部聴講生3人、金曜日2時限の「日本語B3」が人文学部3年生1人である。

国・地域別の内訳は、「日本語A1」が中国13人、マレーシア10人、ベトナム2人であり、月曜3時限の「日本語B3」が中国2人、マレーシア1人であり、火曜日4時限の「日本語B3」が中国4人、韓国2人、イタリア1人、ロシア1人であり、木曜日4時限の「日本語B3」が中国2人、イタリア1人であり、金曜日2時限の「日本語B3」が中国1人である。

後学期の受講者は、「日本語A2」が25人であり、「日本語B4」が月曜日3時限に1人、水曜日2時限に10人、木曜日4時限に5人であった。

所属別の内訳は、「日本語A2」が人文学部7人、経済学部5人、工学部13人であり、月曜日3時限の「日本語B4」が人文学部1人であり、水曜日2時限の「日本語B4」が人文学部3年生1人、人文学部聴講生7人、人間発達科学部聴講生2人であり、木曜日4時限の「日本語B4」が人文学部聴講生4人、人間発達科学部聴講生1人である。

また、国・地域別の内訳は、「日本語A2」が中国13人、マレーシア10人、ベトナム2人であり、月曜日3時限の「日本語B4」が台湾1人であり、水曜日2時限の「日本語B4」が韓国5人、中国4人、アメリカ1人であり、木曜日4時限の「日本語B4」が中国2人、韓国2人、ロシア1人である。

3 「日本事情」

「日本事情」は学部正規留学生を対象とした科目で、第2期（1年生後学期）に「日本事情I」を、第3期（2年生前学期）に「日本事情II」を、第4期（2年生後学期）に「日本事情III」を開講している。

授業では、日本文化を体験したり、統計資料や視聴覚教材を利用しながら、日本の自然、産業、歴史、社会、文化、教育等についての理解を深めることを目的としている。留学生センターの専任教員がコーディネーターを務め、学外の非常勤講師と学部教員の協力を得て開講している。

3.1 2008年度の実施状況

2008年度前学期は、「日本事情II」を木曜日2時限に、後学期は、「日本事情I」を火曜日5時限に、「日本事情III」を木曜日5時限に開講した。

2008年度に2年生となった学生は、前学期開講の「日本事情II」と後学期開講の「日本事情III」をとることになる。また、1年生の学生は後学期開講の「日本事情I」を初めて受けることになる。

3.2 受講者

「日本事情I」の受講者は36人であった。所属別の内訳は、人文学部1年生7人、人文学部4年生1人、経済学部1年生5人、工学部1年生13人、工学部3年生2人、人文学部聴講生8人である。また、国・地域別の内訳は、中国16人、マレーシア12人、韓国4人、ベトナム2人、ロシア1人、アメリカ1人である。

「日本事情II」の受講者は35人であった。所属別の内訳は、人文学部2年生6人、人間発達科学部2年生1人、経済学部2年生3人、経済学部3年生2人、工学部2年生14人、工学部4年生1人、理学部2年生1人、人文学部聴講生7人である。また、国・地域別の内訳は、中国23人、マレーシア6人、

韓国3人、ロシア1人、ベトナム1人、イタリア1人である。

「日本事情III」の受講者は22人であった。所属別の内訳は、人文学部2年生1人、経済学部2年生1人、工学部2年生12人、工学部3年生2人、理学部2年生1人、人文学部聴講生5人である。また、国・地域別の内訳は、マレーシア9人、中国8人、韓国4人、ベトナム1人である。

3.3 コーディネーターと授業担当者

前学期は、「日本事情II」のコーディネーターを加藤扶久美が担当し、学部教員7人（石原外美、川田邦夫、黒田重靖、小松美英子、竹内章、諸岡晴美、山田茂）と非常勤講師1人（竹内茂弥）と加藤扶久美が授業を担当した。

後学期は、「日本事情I」のコーディネーターを濱田美和が担当し、学部教員6人（鈴木景二、隅敦、立川健治、鼓みどり、林夏生、二村文人）と非常勤講師4人（桂博子、三遊亭良楽、清水星栄、経澤菁汀）と濱田美和が授業を担当した。

「日本事情III」は、出原節子がコーディネーターを担当し、学部教員8人（飯田剛史、大熊敏之、神川康子、久保田真功、呉羽長、鼓みどり、堀田裕弘、水内豊和）と非常勤講師1人（淡川典子）と出原節子が授業を担当した。

3.4 授業内容

以下のようなテーマで授業がなされた。

「日本事情I」

桂 博子（非常勤）	「富山の民謡」
三遊亭良楽（非常勤）	「落語」
清水 星栄（非常勤）	「華道」
鈴木 景二（人文学部）	「富山の歴史と観光」
隅 敦（人間発達科学部）	「日本の手作りおもちゃと世界のつながり」
立川 健治（人文学部）	「日本人の身体所作」
鼓 みどり（人間発達科学部）	「日本の美術」
林 夏生（人文学部）	「日本社会と漫画・アニメ」
経澤 菁汀（非常勤）	「書道」
二村 文人（人文学部）	「日本の伝統芸能」
濱田 美和（留学生センター）	「情報収集・レポート作成」

「日本事情II」

石原 外美（工学部）	「日本における最近の技術者倫理教育」
川田 邦夫（極東地域研究センター）	「日本の雪氷環境と日本海」
黒田 重靖（工学部）	「日本の化学と工業」
小松美英子（大学院理工学研究部）	「日本に生息するマリンペスト」
竹内 章（理学部）	「日本の地殻変動と海底資源」
諸岡 晴美（人間発達科学部）	「日本の繊維工業」
山田 茂（工学部）	「日本機械産業の歴史と今後の展望」
竹内 茂弥（非常勤）	「人間活動と環境問題」
加藤扶久美（留学生センター）	「異文化理解」「異文化体験発表」

「日本事情III」

淡川 典子（非常勤）	「人権」
飯田 剛史（経済学部）	「日本人の宗教」
大熊 敏之（芸術文化学部）	「日本の造型」
神川 康子（人間発達科学部）	「日本の住まい・住宅事情」
久保田真功（人間発達科学部）	「日本の教育事情」
呉羽 長（人文学部）	「日本文学」
鼓 みどり（人間発達科学部）	「日本の美術」
堀田 裕弘（工学部）	「日本における情報通信事情」
水内 豊和（人間発達科学部）	「日本の障害児教育」
出原 節子（留学生センター）	「異文化コミュニケーション」

4 おわりに

五福キャンパスの教養教育においては、「日本語」の授業担当者は、全員が留学生教育に関わっており、留学生センター教員5人と学部留学生専門教育担当教員（人文，経済，工）3人の計8人と、同じく留学生教育の経験が豊富な非常勤講師2人である。「日本語A」では、授業を通して生活上の指導・助言ができるように、また、「日本語B」では学部の専門性を考慮したアドバイスができるように、担当教員が連携して、きめ細かい指導を行っている。

「日本事情」に関しては、センター専任教員がコーディネートして、学外の非常勤講師と学部教員との連絡・調整をしながら授業を進めている。